

Q24. 堤防のかさ上げを行えば、ダムは不要ではないでしょうか。

- 整備計画における目標流量を堤防かさ上げにより対応する場合、つまり、ダムに代わって堤防のかさ上げを行う場合、中流部においては、現在の計画堤防高（計画高水位+1.5m）からさらに最大約3.5mの宅地かさ上げが必要となるため、隣接する国道や県道、JR肥薩線からのアクセスなど他の社会基盤との擦り付けによる影響が想定されます。

中流区間(37k000~38k000付近)



宅地かさ上げイメージ(中流区間)

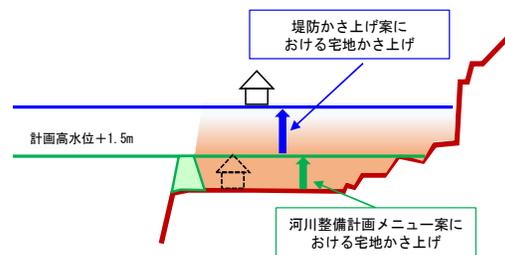


図 中流部において流水型ダムの効果分を堤防のかさ上げで対応した場合のイメージ

- 人吉区間においては、最大約3.6m（人吉市街部で最大約2.7m）の堤防のかさ上げを行う必要があり、堤防に隣接する温泉旅館等の施設や家屋等の用地買収が必要となるとともに、球磨川および支川を渡河している橋梁のかさ上げに伴う用地買収も必要となるなど、現在の市街部が大きく改変されることから社会的影響が大きいと考えられます。

かさ上げイメージ(人吉市街部)

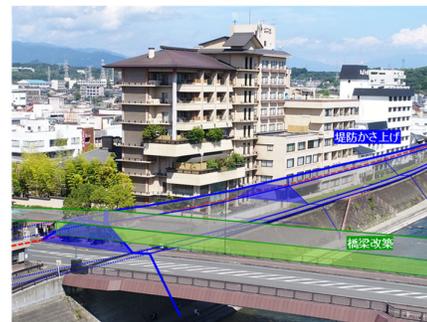
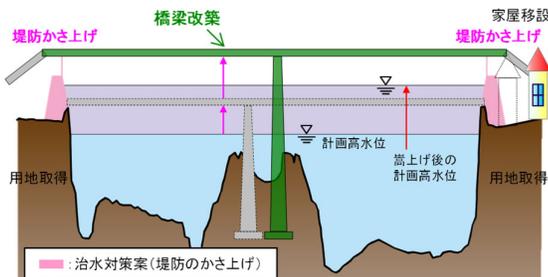


図 人吉区間において流水型ダムの効果分を堤防のかさ上げで対応した場合のイメージ

- また、堤防のかさ上げを行った場合、計画高水位を引き上げるため、堤防が決壊した場合、浸水の広がりや深さが大きくなる可能性があるなど、災害ポテンシャルが増大することとなります。

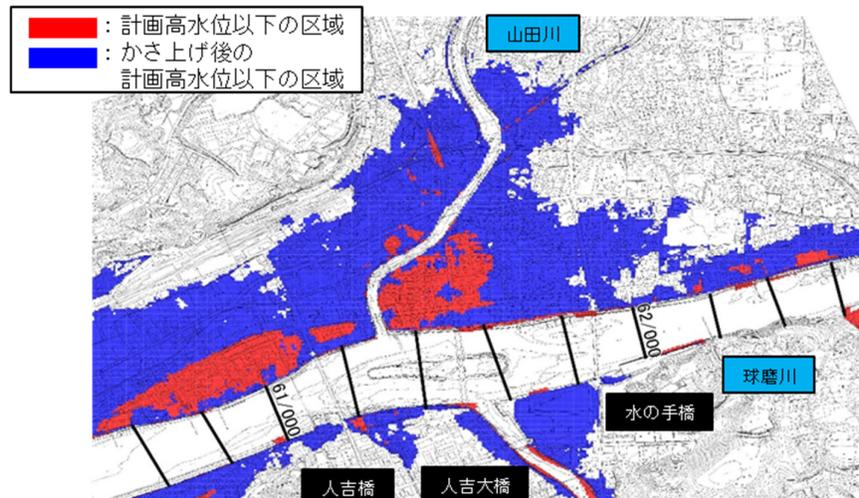


図 人吉区間において流水型ダムの効果分を堤防のかさ上げで対応した場合のリスク増大のイメージ

- なお、令和3年度第3回学識者懇談会において、河川整備計画の目標に対し、「流水型ダムを含む」河川整備計画の整備メニュー（案）と「流水型ダム以外」の複数の治水対策案を立案し、代替案比較を実施し安全度やコスト、地域社会への影響、環境への影響等の観点から評価を行っており、「流水型ダムを含む」河川整備計画（原案）の整備メニューが「最も適切」であることを確認しています。
- 川辺川の流水型ダムを含む河川整備計画の整備メニュー（案）と複数の代替案との比較評価について、ご確認したい方は[こちら](#)をご覧ください。
- なお、川辺川の流水型ダムを含む河川整備計画の整備メニュー（案）と複数の代替案との比較評価については、「令和3年度 第3回球磨川水系学識者懇談会」において、（資料-4）【「河川整備計画の整備メニュー案」の代替案比較について代替可能性検討の考え方】にて示しており、八代河川国道事務所のホームページ「[令和3年度 第3回球磨川水系学識者懇談会](#)」に掲載しています。